

津波ハザードマップ(南海トラフ最大クラス)

この津波ハザードマップは、最大クラスの津波を想定しています。

最大クラスの津波とは、発生頻度は極めて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす津波のことです。モーメントマグニチュード9.1の規模を想定しています。

香川県沿岸に最大クラスの津波をもたらすと想定される津波断層モデルとして、内閣府「南海トラフの巨大地震モデル検討会」公表のモデルや平成24年度香川県検討モデル「安政南海地震」及び「宝永地震」、中央防災会議「東南海・南海地震等に関する専門調査会」から公表された「東南海・南海地震」及び「東海・東南海・南海地震」をもとに、海岸毎のシミュレーション結果を重ね合わせ、最大となる浸水域、最大となる浸水深を検討したものです。

- 条件1 潮位が朔望平均満潮位（各月の最高の満潮面の平均値）に津波が発生。
- 条件2 地震による地殻変動で、海域は隆起・沈降を考慮し、陸域は沈降のみを考慮。  
また、液状化による陸域の沈降を考慮。
- 条件3 河川・海岸等の構造物は、盛土構造物は75%沈下、コンクリート構造物は100%沈下。また、津波が堤防等の構造物を乗り越えた場合、破壊すると仮定。

- 留意事項
- 「津波浸水想定」は、津波防災地域づくりに関する法律（平成23年法律第123号）第8条第1項に基づいて設定するもので、津波防災地域づくりを実施するための基礎となるものです。
  - 「津波浸水想定」は、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表したものです。
  - 最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が想定される津波から設定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
  - 浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に関する計算条件との差異により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
  - 浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場合もあります。
  - 「津波浸水想定」では、津波による河川内や湖沼内の水位変化を図示していませんが、津波の遡上等により、実際には水位が変化することがあります。

